千々石地域振興計画

地域の現状と特性

千々石地域は、本市のやや中央に位置し、普賢岳から扇状に拡がった水田を灌漑し流れる水量豊かな千々石川や、地域内に多数の良質な湧水があり、自然豊かな農漁村地帯であります。

また、交通の拠点となる県央地域（諫早市、大村市）から県内有数の観光地である小浜、雲仙温泉へ通じる主要な地域であるとともに、日本の自然百選、日本の白砂青松百選に選ばれた「千々石海岸」、日本の棚田百選に選ばれた「清水棚田」など風光明媚な景観を呈しています。

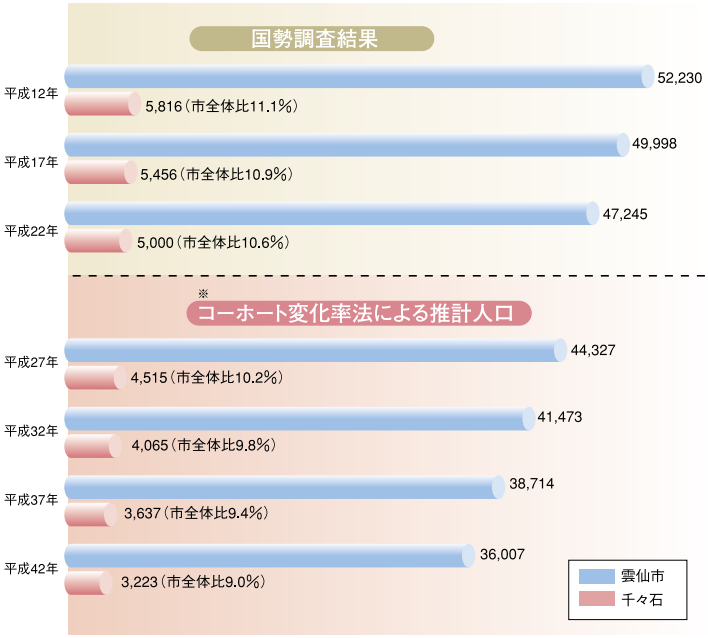
千々石海岸

人口と産業

本地域の人口は、市全域の減少率より大きく、8年後の平成32年には4,100人以下になると推計されます。

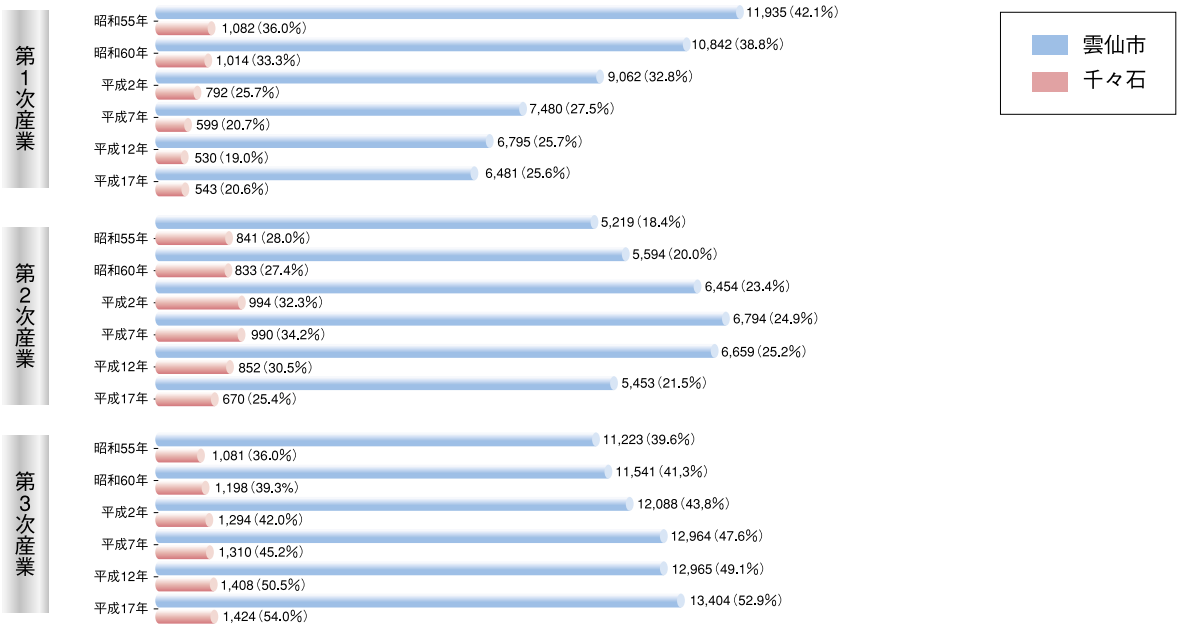
産業では、第1次産業就業者の減少が著しく、昭和55年から平成17年までの25年間で約半数近くに減少しています。これは、農業の離農、後継者不足による廃業、また、後継者の他産業へのシフトによることが要因と考えられます。

商工業については、商業関係の従業者数が減少し、その他は大きな変化はありませんが、事業所数は徐々に減少傾向にあり、販売額・出荷額等も減少しています。

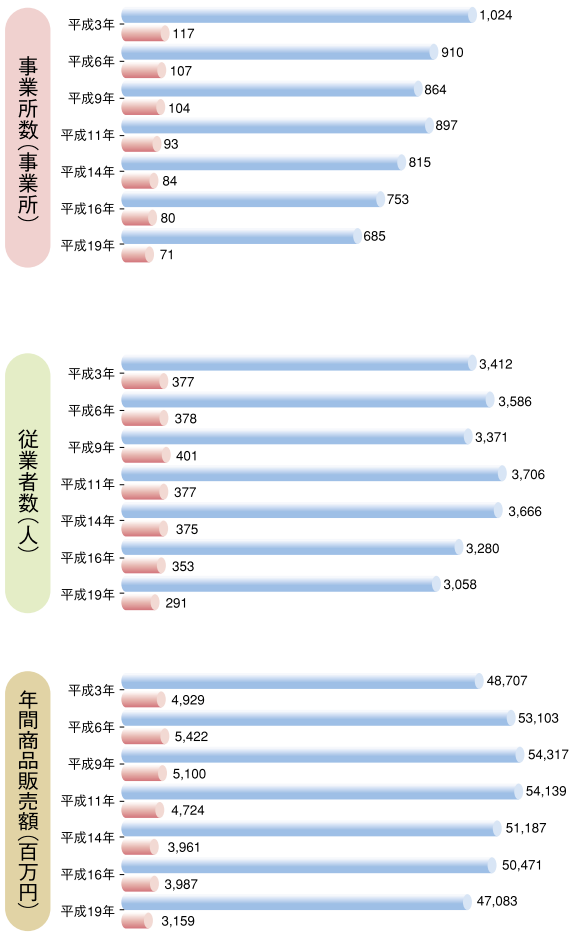


※推定人口は、平成22年の国勢調査結果をもとに推計

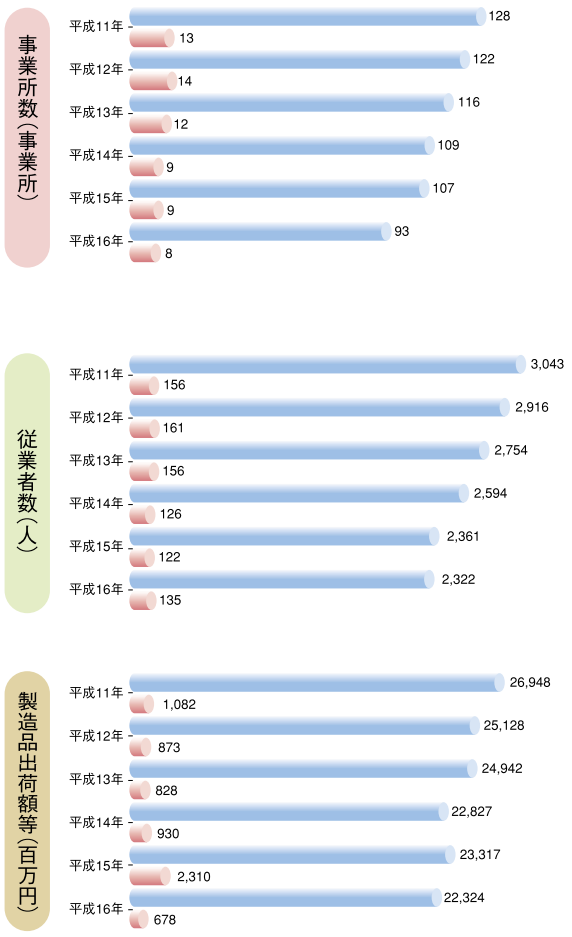
●国勢調査（産業別）



●商業統計



●工業統計



主な地域資源

本地域には、日本の自然百選、日本の白砂青松百選に選ばれた「千々石海岸」やジオパークの構成資源として認定された「千々石断層」等の景勝、初詣客県内2位で大門松や軍神橋、桜の名所としても知られる「橘神社」があります。

また、日本の棚田百選に選ばれた「清水棚田」、「下峰棚田」、そして、その棚田で育まれた「棚田米」があり、水量が豊富で恵まれた自然条件を活用した水力発電施設を有し、石橋が残存する「千々石川」や「湧水」、「仙落としの滝」等もあります。

歴史的人物では、日本初の公式使節としてローマへ派遣された天正遣欧使節四人のひとりである「千々石ミゲル」、江戸後期の南宗画家で孤高の画聖として知られる「釧雲泉」、教育者としても名高い軍神「橘周太」などが有名です。

棚田

現在の主なプロジェクト

本地域では、豊富な湧水など地域資源の再発掘を行い、田舎ならではの賑わいと潤いある田園空間の形成を進め、定住人口の増加、商店街の活性化、魅力ある※地域コミュニティの醸成を推進するとともに、飲料水の確保と供給について、地域住民が常に安心して使用することができるよう簡易水道整備に取り組んでいます。

また、市道千々石後平線や市道山頭八ヶ島線などの改良事業とともに、県道雲仙千々石線の改良事業も行われています。

地域のまちづくり課題と将来像

まちづくりの課題・視点

本地域の人口減少・高齢化は著しく、産業分野では農業従事者の高齢化と後継者不足が大きな課題となっています。

商業においても近隣の郊外型店舗の進出により商店街の衰退も否めず、雇用対策も含め新たな企業誘致、既存企業の育成や商業の活性化策など、産業面の活性化が必要であります。

また、国道57号の整備や国道57号の災害時の代替道路となる愛野小浜バイパスの整備などによって、交通の利便性が向上し、長崎市内及び県央地域の通勤圏内となり、豊富な水資源、公共下水道整備など生活基盤整備が図られ、緑豊かな住宅街を形成することも可能と言えます。

しかし、美しき海と緑深き山々に囲まれた自然豊かな本地域において、環境への負荷を低減するための地域づくりを進める必要があります。

まちづくりの方向性

本地域では、「棚田米」を代表とする良質米、馬鈴薯、施設園芸、畜産を中心とした農業と、※栽培漁業、養殖漁業を中心とした水産業の振興、高齢者も利用しやすい商店街づくりを推進します。

また、本市における自然体験型観光の拠点づくりのために、文化的景観（雲仙岳と岳の棚田）の申請申出を行い、棚田景観の保存に努めるとともに、河川公園、自然公園、白砂青松を活かした海浜公園の整備を進めます。

更に、※水源かん養及び他の地域と連携した水の有効利用を図りながら、※クリーンエネルギーの普及促進等により豊かな自然環境を守り、豊富な湧水を利用した、田舎ならではの賑わいと潤いのある田園空間の形成や、ゴミの分別に対しての市民の意識作りに向けた取り組みを進めます。

国道57号の拡張や国道57号の災害時の代替道路となる愛野小浜バイパスの整備など、県央地域への交通※アクセスの利便性の向上による交流、住みたくなる利便性の高い住環境の形成による定住人口の増加、魅力ある※地域コミュニティの醸成を図り、自然と調和のとれた「にぎわいとやすらぎのまちづくり」や、素晴らしい自然景観や千々石断層、湧水に加え、石橋等の歴史的施設を活かした魅力的な地域づくりを推進します。

小浜地域振興計画

地域の現状と特性

小浜地域は、本市の南部に位置し、日本の国立公園第1号に指定された雲仙国立公園（現雲仙天草国立公園）を有します。その中には、島原半島の屋根にあたる普賢岳や平成2年の噴火により誕生した日本で一番新しい山、平成新山があります。この普賢岳を要とし、扇状に数条の山なみが西部に走り、谷間の川は橘湾にそそいでいます。これらの流域には、狭く細長い水田が連なり、丘陵地帯には畑地が分布しています。

また、本地域には、硫黄泉である「山の雲仙温泉」と塩泉である「海の小浜温泉」の2つの温泉があり、市を代表する観光地を形成しています。

ほっとふっと105

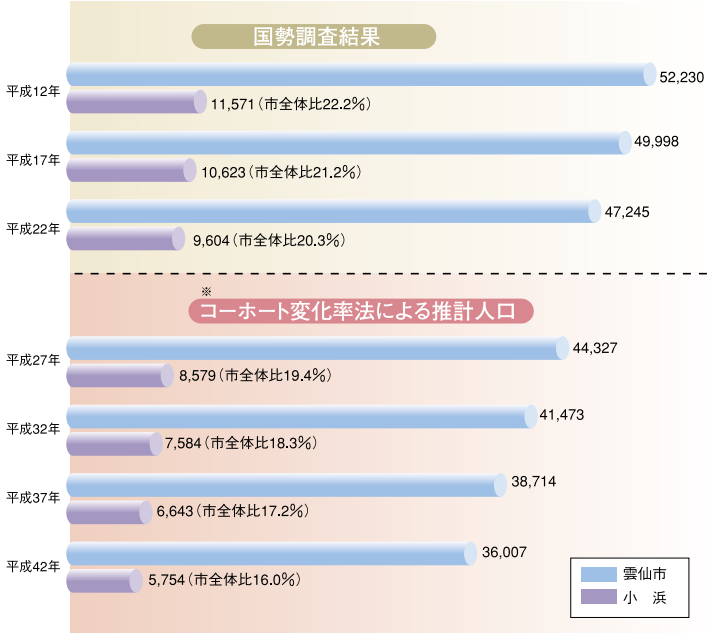
人口と産業

本地域の人口は、現在1万人を割り、7地域の中でも最も高い減少率を示しています。8年後の平成32年には7,600人以下になると推計されます。

産業では、第1次産業（農林水産業等）就業者の減少が著しく、昭和55年と比較すると、平成17年の時点では半数以下にまで減少しています。その要因として、後継者不足による離農や他産業へのシフトによるものと考えられます。

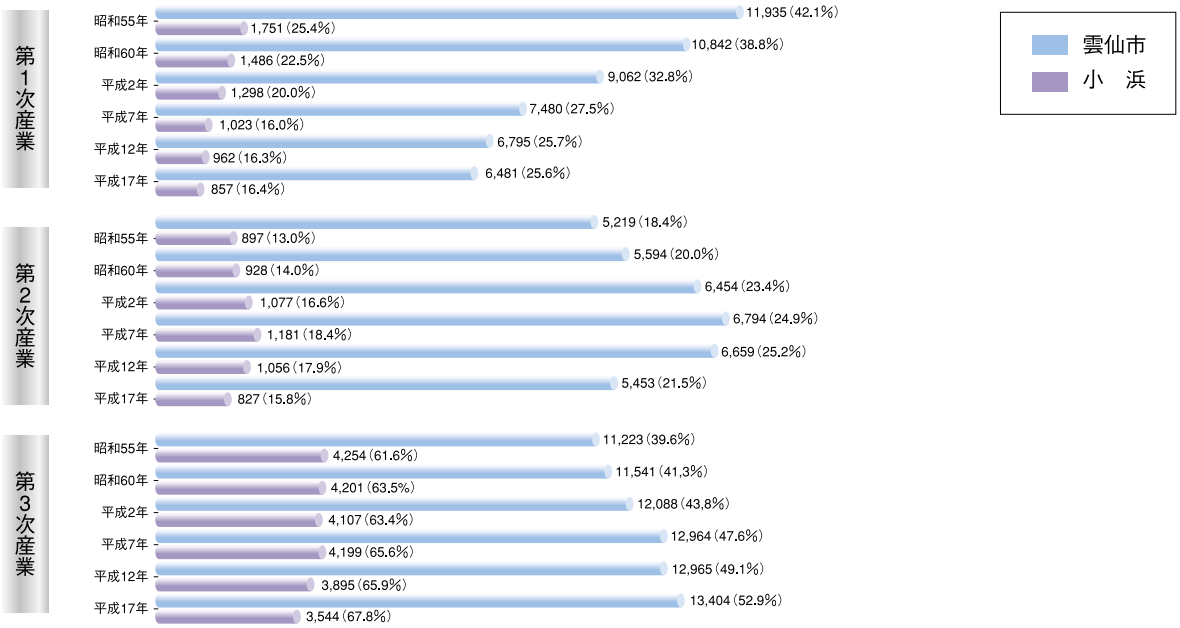
第2次産業（建設業や製造業等）を見ても、製造品出荷額等は微増となっているものの、事業所数・従業者数は徐々に減少傾向にあります。

第3次産業（飲食店・宿泊業やサービス業等）においても、平成16年より年間商品販売額は大きく減少しているところです。

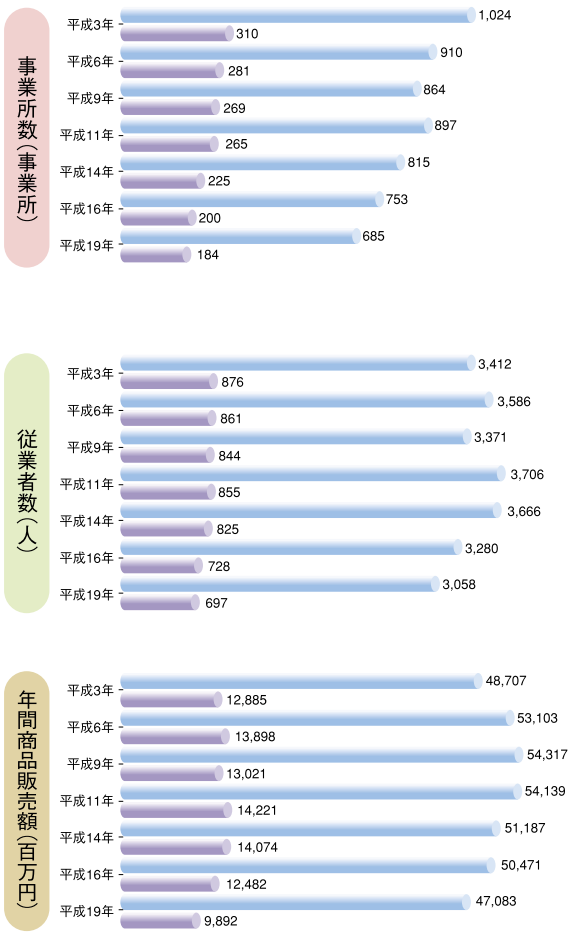


※推定人口は、平成22年の国勢調査結果をもとに推計

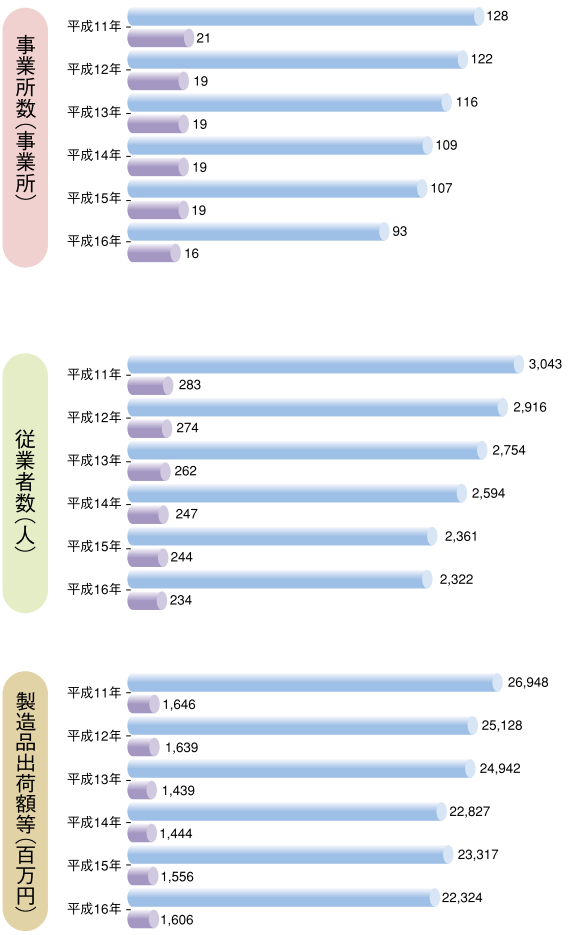
●国勢調査（産業別）



●商業統計



●工業統計



主な地域資源

本地域には、四季折々、雄大で美しい姿を見せる雲仙天草国立公園があります。明治時代より外国人（インドの哲人タゴールや米国のヘレンケラー、パールバック等）の避暑地として賑わい、国際的な観光地としてその名を馳せました。歴史と湯のぬくもりを感じさせる「雲仙温泉」には、日本初の※パブリックコースとして知られる「雲仙ゴルフ場」もそうした時代の礎とともに現代に至っています。また、雲仙のもう一つの姿に「キリシタン殉教の地、雲仙」があります。殉教の聖地としての雲仙温泉は、日本における信仰の歴史としてページを刻んでいます。

別所ダムを囲む巨岩石に彫られた「大黒天磨崖仏（だいこくてんまがいぶつ）」も見逃す事のできない資源です。作者や時代が定かではないだけに、歴史への探訪心がそそがれ、霊山と呼ばれたこの地の由縁に触れることができます。

また、潮風と湯けむり漂う「小浜温泉」の橘湾に沈む夕日の美しさは旅情を誘います。歌人、斉藤茂吉氏は「ここにきて落日を見るを常とせり、海の落日も忘れざるべし」と詠み、その美しさを讃えています。さらに、日本陸上競技連盟が公認した県内唯一の「雲仙・小浜マラソンコース」や105mの日本一長い「足湯（愛称：ほっとふっと105）」、湧水が豊富できれいな「上の川湧水」や「鳴滝」などがあります。毎年4月には、温泉湧水に感謝する「湯まつり」と併せて、新作花火を競う「全九州花火師競技大会」が恒例行事として開催されます。

ジオパークの構成資源として認定された「雲仙岳（三峰・五岳）」など、地域特有の自然や資源が豊富に存在します。

特産品としては、温泉タマゴや湯煎餅、馬鈴薯、小浜ちゃんぽん、橘湾で獲れる新鮮な魚貝類としてエタリ（カタクチイワシ）や渡り蟹（ガザミ）などが有名で、高級な鱧（ハモ）も多く獲れています。

雲仙温泉街

現在の主なプロジェクト

本地域の雲仙地区では、雲仙古湯地区街なみ環境整備事業の実施や22年後に国立公園指定100周年を迎えるにあたり、将来ビジョンを創ることを目的とした「雲仙プラン100プロジェクト」を進行中であり、各種団体が積極的にイベントや研修会等を開催し、地域おこしとまちづくりに参画し、人材育成を図り、雲仙温泉の歴史とロマン、そして自然の魅力を発揮できるまちづくりを推進しています。

小浜地区では、足湯（ほっとふっと105）などを活用した小浜温泉街の活性化推進や地域市民の生命と生活を土砂災害から守るための砂防事業や、漁港海岸区域において、台風や高潮の被害から背後地住民の生命財産を守るための木指漁港海岸高潮対策事業を実施しています。

また、BDF（※バイオディーゼル燃料）や未利用温泉廃熱を活用した小規模発電など、自然エネルギー活用の検討や長崎大学と長崎県との連携事業（※Eキャンレッジプログラム）として、雲仙Eキャンレッジ交流センターを活用した環境教育等も行われております。

地域のまちづくり課題と将来像

まちづくりの課題・視点

本地域の人口減少・高齢化は著しく、観光産業も普賢岳災害以降低迷しているため、雲仙・小浜の温泉街、商店街における市民が一体となって観光産業の振興や観光客誘致に向けた取り組みが急務であります。

水産業においては、橘湾沿岸の磯焼け等による漁獲量の減少とともに、農業においても、後継者不足や価格の低迷等が課題となっています。

交通※アクセス面では、愛野から小浜間が国道57号のみであるため、災害や緊急医療時における代替道路がなく、避難路及び高齢者への医療提供体制のための地域交通が確保されていないなど危機管理対策が十分ではありません。

まちづくりの方向性

(1) 市民力・地域力を活かしたまちづくり

本地域は、日本有数の温泉郷として、「海の温泉」、「山の温泉」それぞれの温泉街の魅力ある観光地づくりや特色ある商店街、街なみづくりに取り組むとともに、昔ながらの温泉郷としての整備を図り、地域住民の一人ひとりが、地域・郷土を愛し、市民の満足度・観光客の満足度向上の為の情報発信力・行動力である「市民力」や、地域の歴史や風土・文化・人材等を地域活性化に活かす市民の努力・実行力・創造力の具体化である「地域力」を活かした挨拶運動やおもてなしキャンペーン等市内各地域と連携し、観光客誘致を図ります。

(2) 新しい時代の新しい観光・産業施策

また、雲仙・小浜温泉におけるホテル旅館等を活用した市内の観光資源の情報発信と空き店舗等の活用を検討するとともに、市の農林水産物の地産地消を推進し、相互連携による「雲仙ブランド化」も併せて推進します。

農業では、基幹作物である馬鈴薯等露地野菜栽培や施設園芸など農業振興を図り、水産業では、養殖漁業や※栽培漁業の振興を図ります。

(3) ※新エネルギーのモデル地区

更に、各地域から「雲仙温泉」、「小浜温泉」へのアクセス道路や国道57号の災害時の代替道路となる愛野小浜バイパスの整備などを進めるとともに、家庭やホテル・旅館等で使われた天ぷら油などの植物性廃食用油から※燃料を製造するBDF（※バイオディーゼル燃料）や未利用温泉廃熱を活用した小規模※バイナリー発電等新エネルギーを活用したモデル地区となるような新しい時代の観光地としてのイメージアップを図ります。

南串山地域振興計画

地域の現状と特性

南串山地域は、本市の南端に位置し、南島原市と隣接しており、雲仙岳から広がるなだらかな丘陵、磯浜が長く続く美しい海岸線、川の流域には棚田が広がり、丘陵の斜面には耕地が並び棚畑を形成し、大規模な基盤整備も進んでいます。

この美しい風景の中で展開される農業は、露地野菜の栽培を中心に営まれています。また、出作による積極的な規模拡大を図るなど耕作意欲に富み、地域の基幹産業となっております。

水産業は、橘湾の恵まれた水産資源により、豊富な魚種が水揚げされる沿岸漁業や養殖漁業が行われ、さらに、東シナ海や三陸沖、北海道まで出漁する大目流し網漁業やサンマ棒受け網漁業などの沖合漁業も行われています。

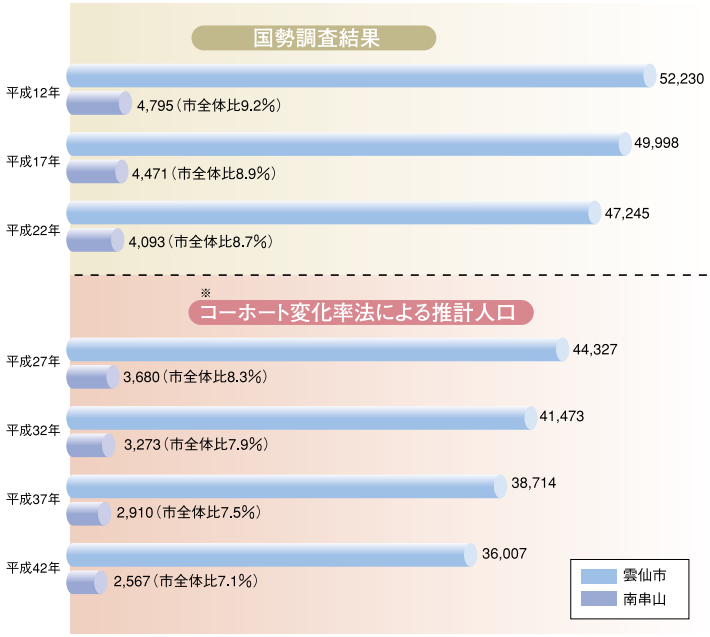
棚畑・棚田

人口と産業

本地域の人口は、市全域の減少率より大きく、8年後の平成32年には3,300人以下になると推計されます。

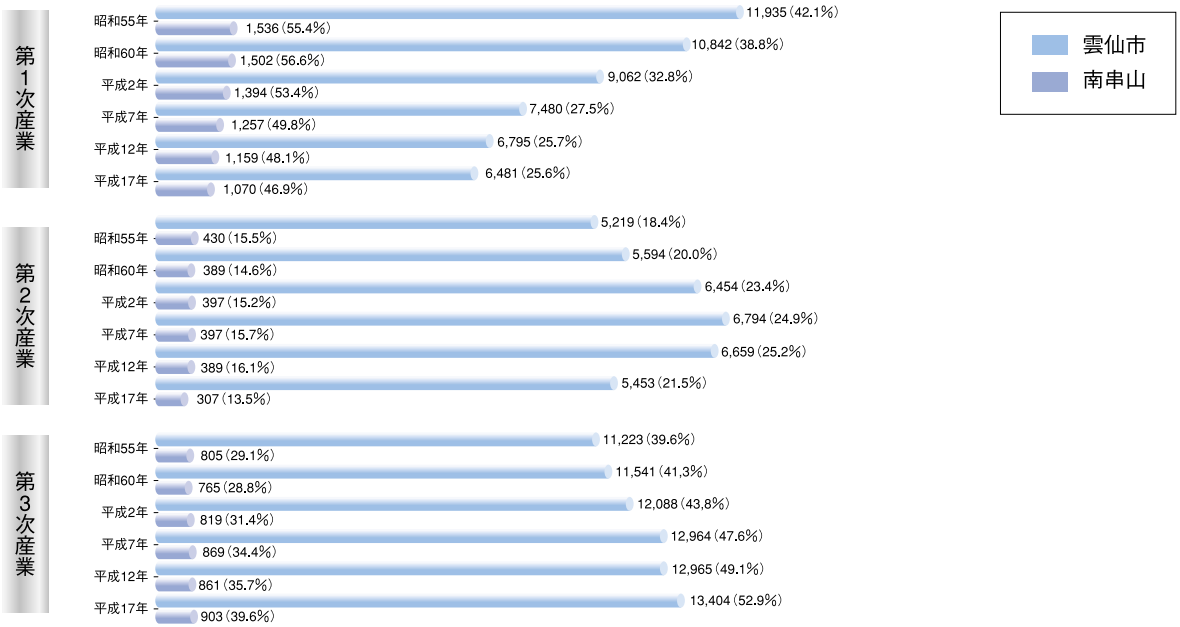
しかし、産業では、後継者が多いことなどにより、第1次産業就業者の減少率が緩やかです。第2次産業就業者は減少傾向にあるものの、第3次産業就業者数は微増しています。

また、商業については、事業所数や従業者数、販売額は減少傾向にあり、工業については、事業所数は減少しているものの、従業者数や製造品出荷額等は、平成14年から横這いの状況となっています。

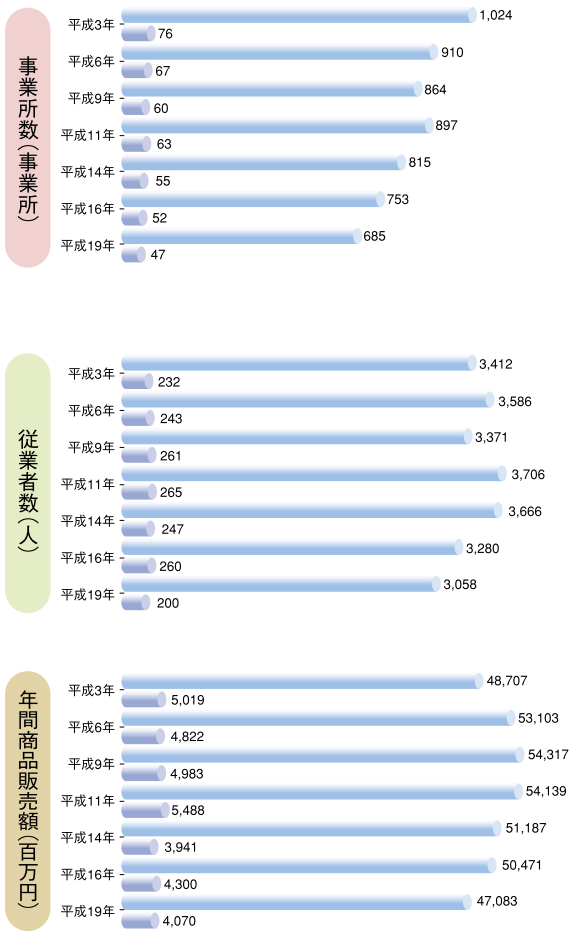


※推定人口は、平成22年の国勢調査結果をもとに推計

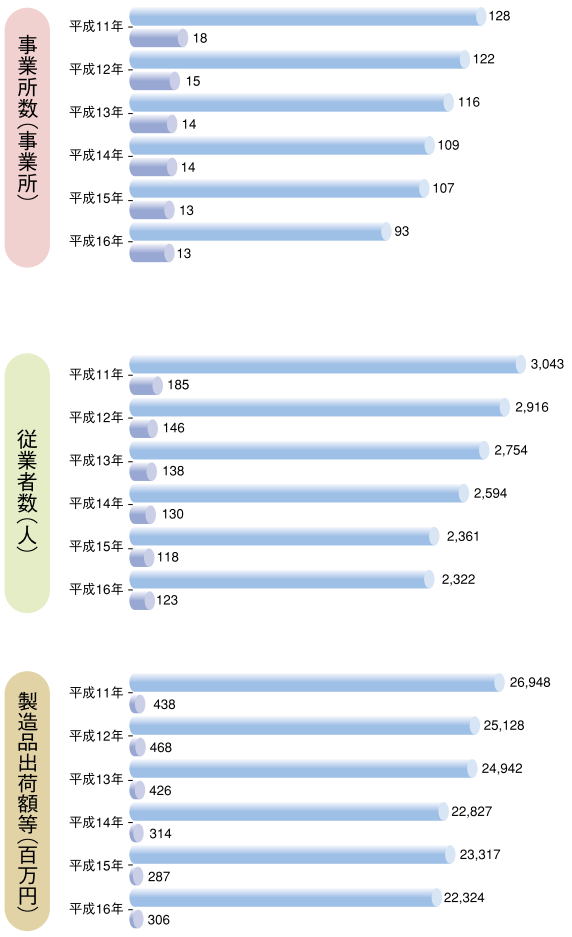
●国勢調査（産業別）



●商業統計



●工業統計



主な地域資源

本地域には、リゾート地のプライベートビーチを思わせる青い海、亜熱帯植物、大自然を満喫できる「県立自然公園国崎半島」があり、また、新しい観光・フォトスポットになっている「棚畑・棚田の景観」、その棚畑約800枚を眺めることができ、美しい風景が楽しめる棚畑展望台もあります。

特産品では、煮干しや、食の世界遺産として登録された「エタリの塩辛」をはじめ、※雲仙ブランドとして認定されている「雲仙岩ガキ」や「雲仙ハマチ」「雲仙トラフグ」などもあります。

県立自然公園国崎半島

現在の主なプロジェクト

本地域では、飲料水の確保と供給について、地域住民が常に安心して使用することができるよう簡易水道整備に取り組んでいます。

また、市道南串山後山尾登線や市道南串山射場日原線などの改良事業も行っています。

地域のまちづくり課題と将来像

まちづくりの課題・視点

本地域では、人口減少・高齢化が進んでいるものの、産業分野では他地域と比較して農水産業の後継者が多く、専業農家率も高く、大規模な基盤整備も進んでおり、経営規模の拡大も進んでいます。しかしながら、農業においては、天候に左右され、価格が変動しやすいことや、水産業においては、橘湾沿岸の磯焼けなど自然環境の変化による漁獲量の減少、価格の低迷が課題となっております。

今後は、農水産業における新鮮で豊富な資源を活かした自然にやさしい加工品づくりなどに取り組む必要があります。

また、河川周辺の環境美化（農業用廃ビニールや※農業残渣等廃棄物の不法投棄）など、課題があります。

まちづくりの方向性

本地域では、馬鈴薯やレタス、カボチャ等の露地野菜栽培を中心とした※環境保全型農業や養殖漁業を含めた※資源管理型漁業の振興を図ります。農水産業の※6次産業化への展開を目指し、豊富な地域の農水産物を利用した加工品作り、及び商品化に向けての取り組みを推進し、本市食文化の拠点づくりに取り組みます。

また、国崎半島は本市の広域観光における※ブルーツーリズムの拠点の一つとして、ハマユリックスホールは本市の文化、教養の拠点の一つとして活用します。

そして、他地域と連携した水資源の確保に努めるとともに、環境浄化を推進し、道路網の整備を進め、交通※アクセスの改善に努め、生活環境整備の充実を図ります。